

牡丹餅の涙

内山 榮

……宮崎県 70歳

「今年の夏祭はよいことがあるからね」

この日の夕食は、米が少しばかりと千切大根が大部分のわずかな代用食である。みんなが不満そうなのに、笑顔の母が話しかけた。

今から五十八年前、私は腕白盛りで新制中学校の一年生だった。その頃、南九州の水稲は、毎年繰り返し米襲する強い台風で、大きな被害を被り米不足が続いていた。このようなときに、貧乏なわが家で考えられるよいこととは、恒例による母の煮染にしめにおいしい食材料が少し増えそうな気がする。

「よいことって分かったよ。毎年、お母さんが手作りしている、おいしい煮染になにか足すんじゃないのかなあ」